

## ポスターセッション

### 埼玉県立文書館の展示活動

#### 埼玉県立文書館

埼玉県立文書館の展示は普及事業の1つに位置づけられ、文書館の所蔵資料や活動を広く人々に知ってもらうことを目的に行っている。今回のポスターセッションでは、そうした当館の展示活動の概要を紹介した。

まずは、展示室内で開催している常設展示とコーナー展示である。当館では県内各地に遺された約39万点の古文書や、明治以降の埼玉県政に関わる公文書、そして県や市町村が作成した地図等について、収集・保存・活用を進めている。常設展示では、主にこれらの「古文書」「公文書」「地図」とはどのような資料で、そこから何が読み取れるのかを紹介している。一方、これとは別に、特定のテーマに沿った展示を毎年4～5回開催している。これがコーナー展示で、時には常設展示のスペースも一部用いて大規模に行っている。今年度の開催例として、全国的に著名な信長、秀吉といった戦国武将が発給した書状を披露したものや、県内で在村医・村役人・好古家として活躍した小室家の功績を伝えるもの、埼玉県内の食文化や食政策の歴史を紹介するといった、コーナー展示が行われた。

このほか、文書館の活動を伝える展示もある。例えば、展示室内ではボランティアによる古文書の修復作業を紹介している。修復がどのように行われ、修復を経た資料がどのように変わり、閲覧・提供につながっているかという、その活動の重要性を知ることができ



ポスターセッション会場

る。また文書館では、県史の編纂事業に連なるものとして、『埼玉県史料叢書』を刊行している。そこで展示では、その校正・編集作業を刊行物とともに紹介している。さらに、館内では、和本・巻物・立体地図などのものづくりを含めた、子供向け体験教室の風景を写真で伝えているほか、近年では博物館学芸員の実習生が作成した、戦後報道写真のパネル展示も並んでいる。

所蔵資料や活動が多岐にわたる一方で、これらを紹介するための展示空間は限られている。それでも、今までその限られた空間を駆使して展示活動を続けてきた理由の1つには、展示の見学を機に人々に文書館へ足を運んでもらうという利用促進の目的がある。「文書館」とはどのような施設で、具体的に何ができる場所なのか、現在もなお一般の人々の間での認知度は博物館と比べて低いと思われる。実際に、展示の見学者の感想を見ると、文書館に来たのは「初めて」と回答する人が多い。しかしながら「貴重な資料があることを知った」とその展示内容に感嘆する声も聞

く。そのため、文書館へ足を運ぶ機会を作り、文書館やその資料の存在を知るきっかけを作るという意味で、展示を開催することによる広報効果は大きい。この展示によって将来的には、資料の「見学者」が資料の「利用者」になると期待している。

(永井瑞枝)